

保存版



Racing Specialities

PB-SNC² **Astral-X**

取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



PRO SHADE SYSTEM

本書の各図記号は以下ののような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のため、守っていただきたいこと。

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願ひいたします。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合ってないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。



- ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェイスやフルフェイス等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。
- ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。
- ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる！」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。



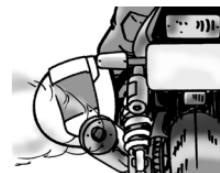
▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。



▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や、車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げる運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れであご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれを発見した場合は、あご紐の修理を弊社品質管理課までご依頼ください。※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。



あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してあご紐が次第につれて（ひきつって）変形してしまいます。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

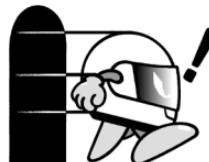
▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

周りが暗くなってきたにも関わらずスマートシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のライヘルメット純正クリアーシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調節するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を食器洗い用中性洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。尚、ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。



▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。



▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なので、この限りではありません。



▼ヘルメットをミラーに引っ掛けないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナが変形するおそれがあり、変形したライナは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモールを傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行ってください。



▼ヘルメットの性能は永久不变ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のSG被害者救済制度



▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態で1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。



※例え1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。

▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、齧歯類の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数列等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。



▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネ等のご使用について

シールドは、ポリカーボネイト樹脂を原料とする「金型射出成形」と「平板の熱曲げ」の二種類の製造方法があります。しかし、いずれの方法においても成形時に少なからず残留応力が発生します。その残留応力によるシールドの分子量の変化が偏光レンズによって虹色の模様となり、シールド越しの風景が見え辛くなります。この事をご理解いただき、偏光レンズの使用はお控えください。

▼ベンチレーションダクトについて

- ベンチレーションダクトは両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に外そうとすると、ヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。
- トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行つてください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋をつよく閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。
- 暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

▼つや消し塗装のヘルメットについて

- つや消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なつやが生じてしましますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの台所用洗剤を水で薄めてご使用ください。
- つや消し塗装面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。
- つや消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

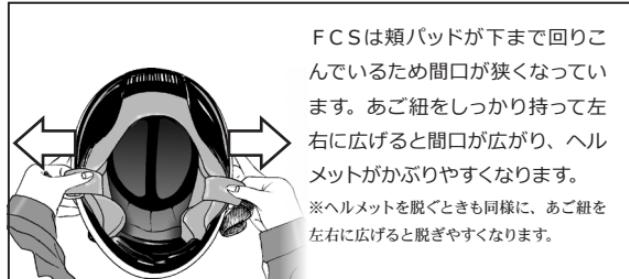
▼エマージェンシータブについて

エマージェンシータブとは、救護者が傷病者のヘルメットを脱帽させる前段階として、脱帽時の抵抗となる頬パッドの除去をスムーズに行うことを目的としたシステムです。救護者は、頬パッドのカバー等に縫い付けられた目印（ETポイントラベル）で傷病者の着用するヘルメットがエマージェンシータブに対応している事を認識できます。



エマージェンシータブによる頬パッドの除去は、当システムを十分に理解した上で、ヘルメット脱帽の訓練を経験した救護者によって行ってください。尚、事故状況や傷病者の状態によっては、エマージェンシータブが頬パッドの取り外しを確実に行なう有効な手段とならない場合があります。

FCSを採用したヘルメットのかぶり方

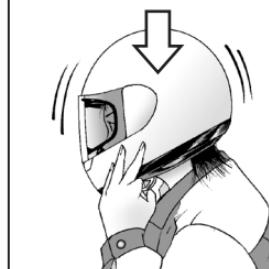


FCSは頬パッドが下まで回りこんでいるため間口が狭くなっています。あご紐をしっかりと持って左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。このようにする事で前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っ張り、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。

アストラルXの特長

Peripherally Belted-SNC²

PB-SNCの成形用樹脂を大幅に見なおしたPB-SNC²。その前頭部は、窓カットと並列に配されたスーパーファイバーベルトによって強化され、サイドからリヤにかけてスーパーファイバクロスで補強を行い、帽体全体での剛性を高めています。

VAS-Vロック

【RX-7X】で初採用された、レバーによる強固なシールドロックシステムであるVAS-Vロックは、衝撃によるシールドの不意の開放を防ぎます。

マウスシャッター

フリーフローシステムモードとデフロストモードの二つの機能を併せ持つマウスシャッターを採用。

PSプローベンレーション

PSプローベンレーションから取り入れられた外気は、インナーサイドダクトによってこめかみ部分へと導かれます。

頭部ベンチレーションダクト

外気をヘルメット内部へと導くQVFダクトは、吸気口を閉じると同時にダクト開口部を塞ぐことで風切り音を軽減。

ワンタッチ操作で三ヶ所の排気口を同時開閉できるQVRダクトは、ヘルメット内部にこもる熱気を排出します。

VAS-Vプロシェードシステム

可動式のVAS-V PSサンバイザーは、上げるとバイザー（庇）として機能し、下げるとスマートシールドとして機能します。

EPフルシステム内装

海外市場で高い評価を受けているアライの固定内装の優れたかぶり心地を着脱式内装でも再現すべく開発されたフルシステム内装は、長時間の走行でも違和感のない心地良いフィッティングを実現。

FCS構造システムパッド

FCSを取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。

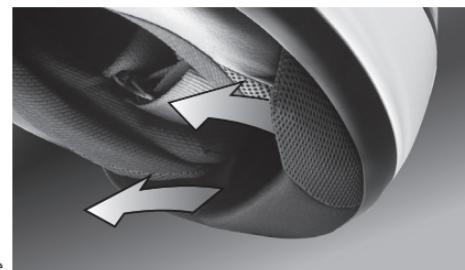
エアロフラップ

走行時のヘルメット下部を流れる空気を整え、風の巻き込みを抑えてヘルメットを安定させます。

ESチンカバーV

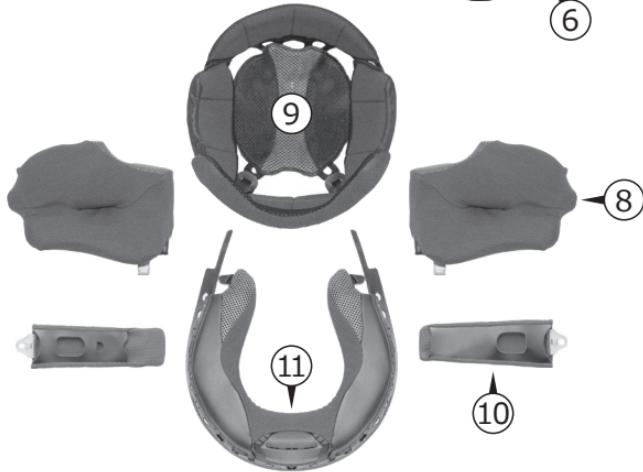
あごの下を着脱可能なカバーで覆って気流を整え、走行時におけるヘルメット内の静肅性を高めます。

また、チンカバー内部のフレームによって排気ポートが形成され、マウスシャッターから導入された外気の作用により口元にこもる空気を押し出し、息苦しさを解消します。



Image

- ① VAS-Vロック
- ② QVFダクト
- ③ QVRダクト
- ④ サイドダクト
- ⑤ マウスシャッター
- ⑥ ESチンカバーV
- ⑦ プロシェードシステム
- ⑧ EPシステムパッド
- ⑨ EPシステム内装
- ⑩ EPストラップカバー
- ⑪ EPシステムネック



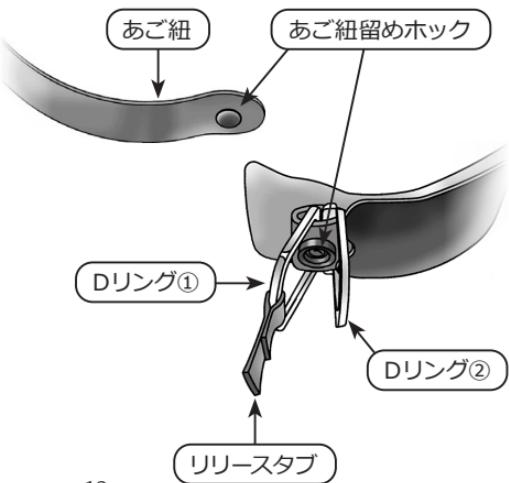
目 次

A	あご紐の正しい締め方	12～13ページ
B	デミストポジションについて	14ページ
C	シールドの開閉	15ページ
D	シールドの着脱	18～21ページ
E	シールドベースの着脱	22ページ
F	PSプローシャッターの操作	24ページ
G	マウスシャッターの操作	24ページ
H	QVFダクトの操作	25ページ
I	QVRダクトの操作	25ページ
J	ディフレクターの着脱	26ページ
K	エアロフラップの操作	27ページ
L	プロシェードシステムの操作	28～32ページ
M	システムパッドの着脱	34～35ページ
N	パッドカバーの着脱	36～37ページ
O	ヘルメットサイズの调节	39ページ
P	システム内装の着脱	40～41ページ
Q	システムネックの着脱	42～43ページ
R	ストラップカバーの着脱	44～45ページ
S	ヘルメットのお手入れ	46～47ページ
T	オプションパーツリスト	48～49ページ
U	ESチンカバーVについて	50～52ページ

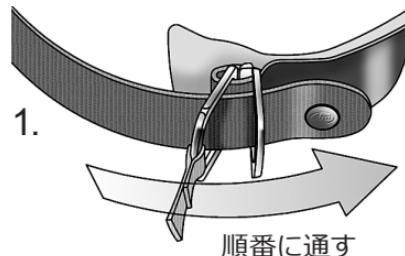
A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願ひいたします。

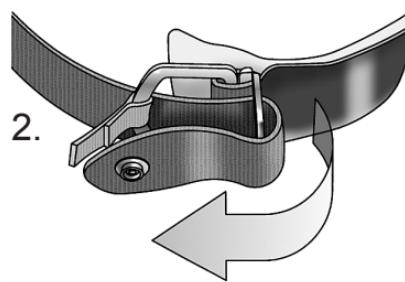
あご紐の各部名称



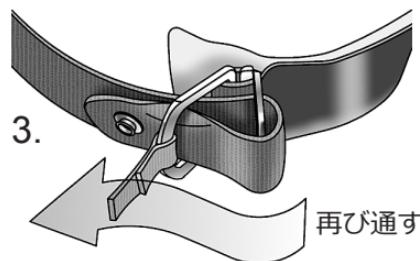
1. 二つのDリングに通す
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。
※あご紐を通す際には、途中でねじれさせないようにご注意ください。



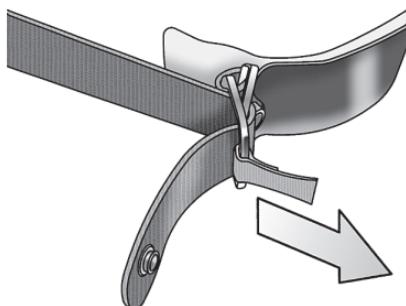
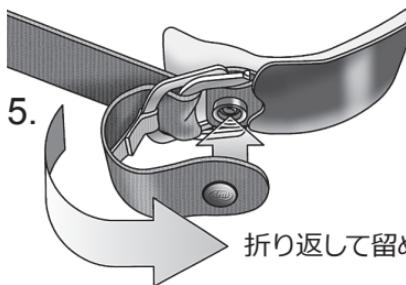
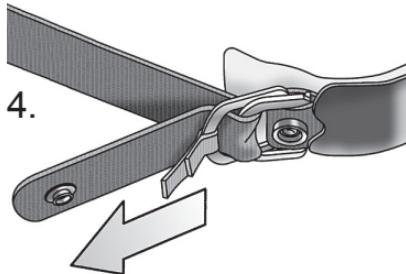
2. あご紐を180°折り返す
二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱってゆるみを取り除きながら180°折り返します。



3. Dリング①に再び通す
折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。



4. あご紐を引っぱる

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っぱると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1~2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。



5. 余った先端部を留める

余ったあご紐の先端を【あご紐留めホック】で留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。

リリースタブの使い方

【あご紐留めホック】を外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っぱると、あご紐を簡単に緩めることができます。



あご紐を【あご紐留めホック】で留めただけの状態であご紐を持たないでください。
【あご紐留めホック】が外れてヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。

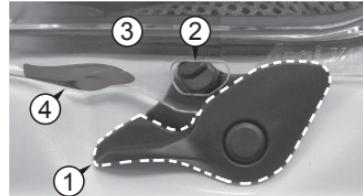


VAS-Vロックについて

VAS-Vシールドは、四輪用ヘルメットのGP-6で採用されたレバーによる強固なシールドロックシステムをベースとしたVAS-Vロックによってシールドがロックされ、外圧や衝撃による不意のシールド開放を可能な限り防ぎます。

VAS-Vロック各部名称

- ①Vロックレバー（点線部）
- ②Vロックベース
- ③シールド
- ④シールドの指かけ



Image

B デミストポジションについて

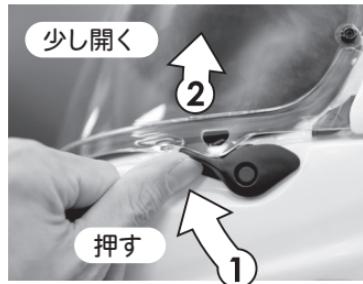
シールドロックからデミストポジションへ

[Vロックレバー]前方を親指の腹で押し上げると、シールドロックが解除され、シールドが少し開いて隙間が生じます。

この状態を【デミストポジション】と呼称し、隙間から入り込む外気はシールドの曇りを軽減します。



ココを押し上げる



デミストポジションからシールドロックへ

[シールドの指かけ] の上に指をかけてデミストポジションから更にシールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



シールドロック完了



Image

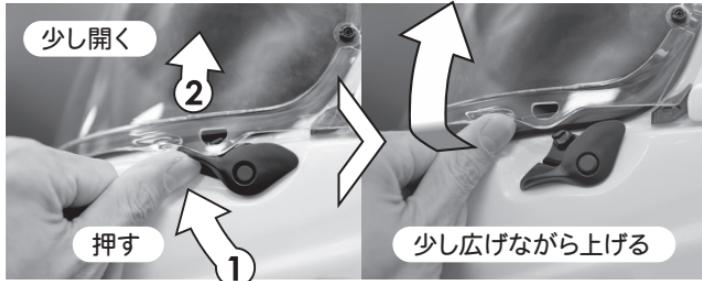
C

シールドの開閉

シールドの開き方（シールドロックの解除）

[Vロックレバー] 前方を親指の腹で押し上げるとシールドロックが解除され、シールドは一旦デミストポジションに移動します。

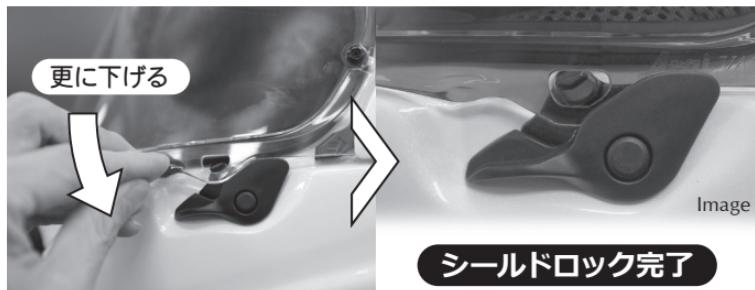
次に、[シールドの指かけ] の下に指を移し、**少し外側に広げながら**シールドを上げます。



シールドの閉じ方（シールドロックの方法）

シールドを閉じる際は、先ずデミストポジションまでシールドを下げます。

次に、[シールドの指かけ] の上に指をかけて**デミストポジションから更に**シールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



シールドのロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。



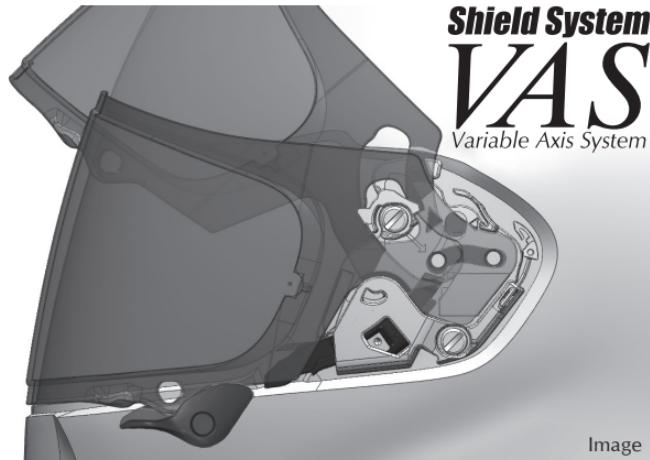
Vロックレバーは絶対に下向きに押さないでください。シールドのロック機構が損なわれるおそれがあります。



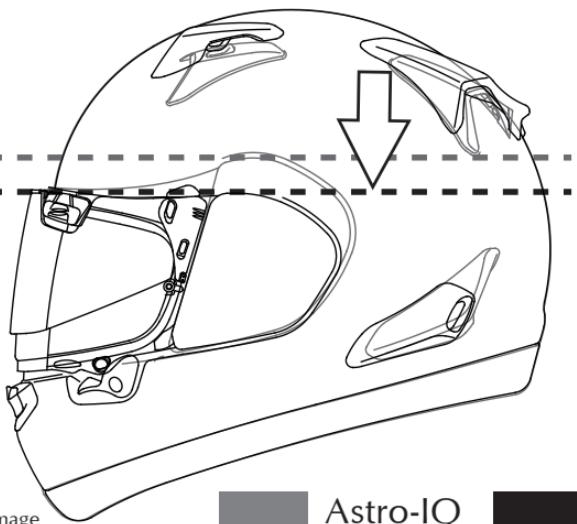
Image

VAS-Vシールドの仕組み

VAS-Vシールドは、シールドの回転軸を可変させることで固定された回軸とは異なる、ホルダー範囲を飛び越す仮想軸を創り出し、ホルダー及びシールドベースのコンパクト化を実現しました。



Image



Image

Astro-IQ

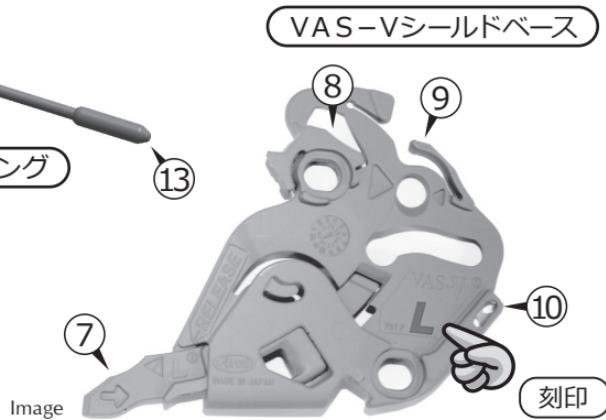
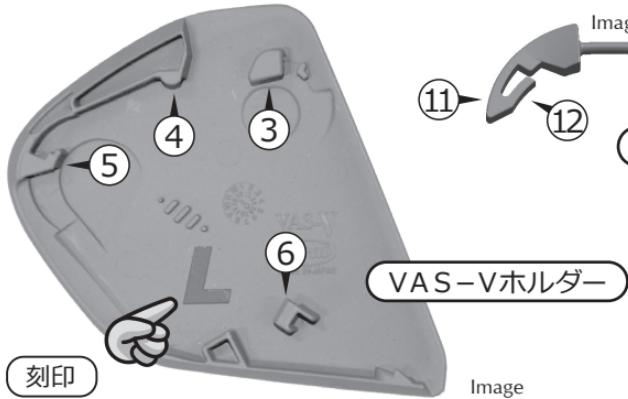
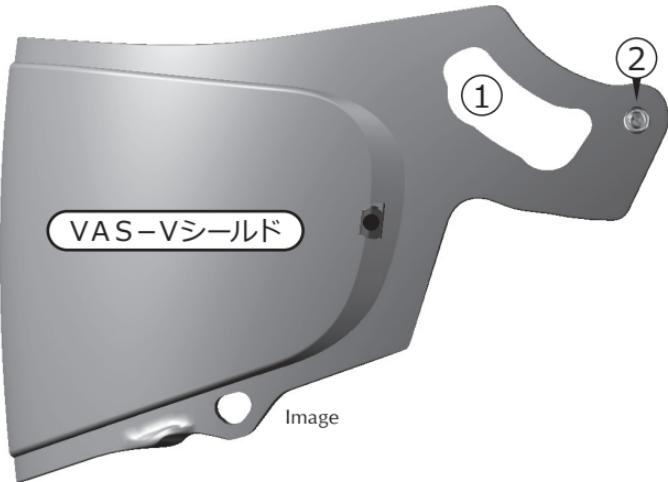
Astral-X

衝撃をかわすために大切な、丸くてなめらかな曲率ゾーンを拡大することで、Araiが提唱する安全性のこだわりをカタチにしました。それが「VAS」です。



VAS-V構成パーツの各部名称

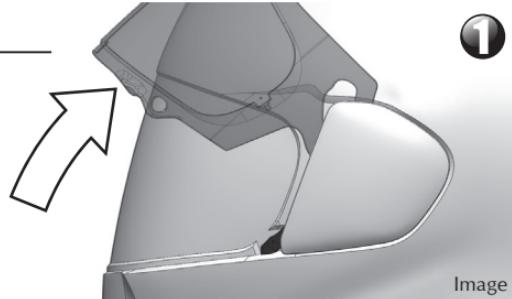
VAS-Vシールド	1	摺動穴
	2	シールドピン
VAS-Vホルダー	3	上部フック(前)
	4	上部フック(後)
	5	ストリング用マウント
	6	下部フック
	7	VAS-Vリリースレバー
	8	上部フック受け(前)
VAS-V シールドベース	9	上部フック受け(後)
	10	ストリング用マウント
	11	フック
ストリング	12	返し
	13	アンカー



D シールドの着脱

シールドの外し方

- ①15ページの【シールドの開閉】を参考に、シールドを開いて全開にします。
※図ではVロックレバーを省略しています。



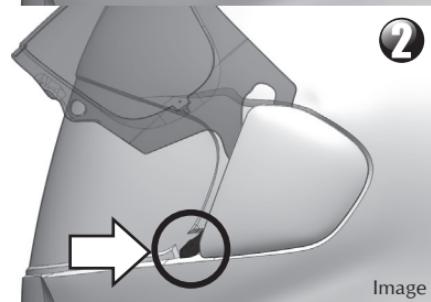
- ②ホルダーの前方に見える【VAS-Vリースレバー】を、刻印された矢印の方向に押し込みます。



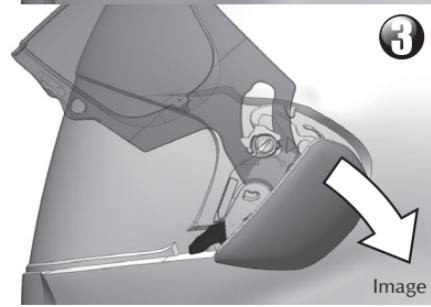
リリースレバーは、止まる位置までしっかり押し込んでください。



- ③ホルダーのロックが解除されてホルダーが外れます。

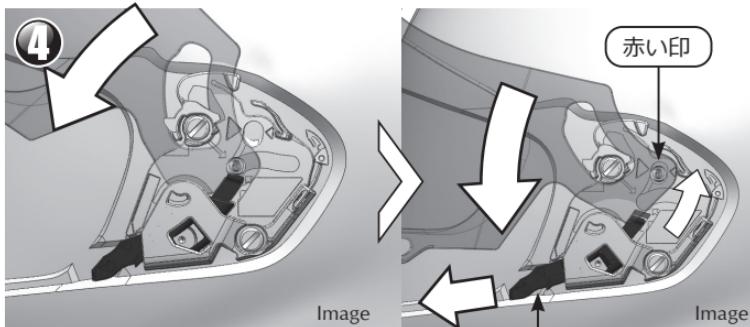
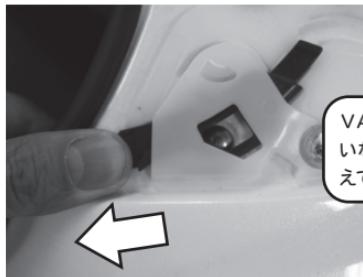


ホルダーとシールドベースは、落下防止用のストリングで繋がっています。



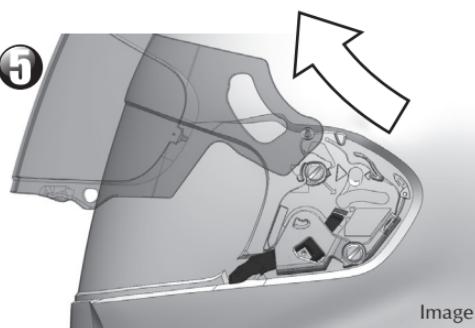
④ VAS-Vリリースレバーが押し込まれた状態でシールドを下げるとき、通常の開閉とは異なる動きをします。シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレール(～の形をした溝)から離脱して、シールドベースから覗く赤い印の位置に移動します。その際、VAS-Vリリースレバーは元の位置に戻ります。

※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。



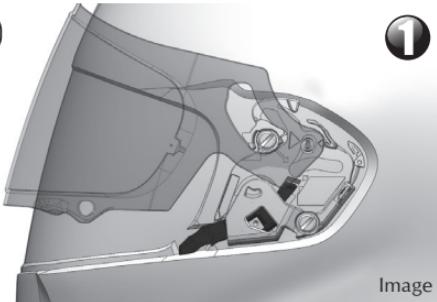
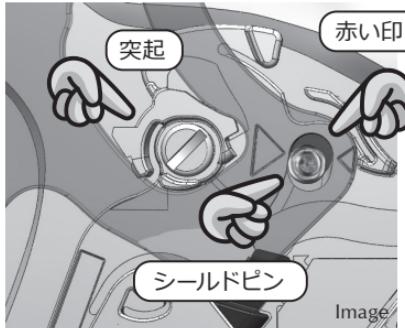
⑤この時シールドは、シールドベース側に一箇所のフックで留められているだけなので、シールドを後方からめくることでシールドベースから簡単に取り外すことができます。

⑥反対側も同様の手順で取り外しを行ってください。

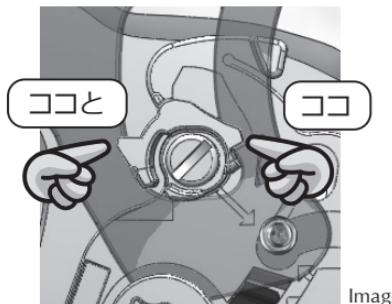


シールドの付け方

①シールドベースに設けられた突起（可変軸受け）にシールドの摺動穴の下側を合わせます。そして、シールドピンをシールドベースから覗く赤い印に重ね合わせます。



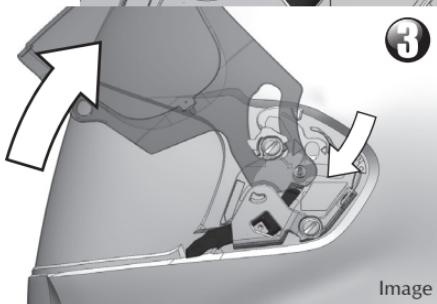
②フック部分のシールドを上から押して、フックの下に入り込みます。



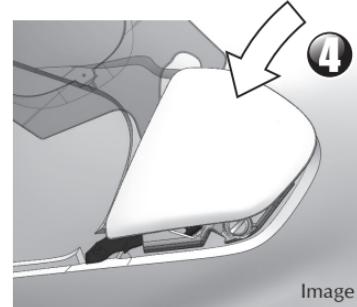
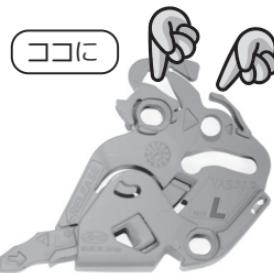
③シールドを上げると、シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレール（～の形をした溝）に入り込みます。

※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。

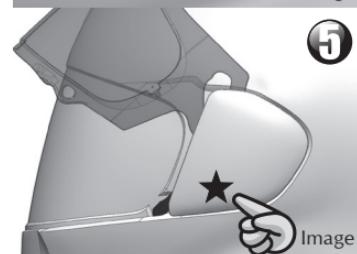
指で示した部分がシールドの上にかぶさっている事を確認してください。
Attention



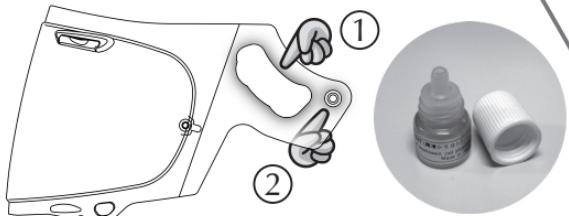
④ホルダーの上部二カ所のフックを、シールドベース上部の窪みに引っかけます。



⑤ホルダーの外周とヘルメットの段差の形を合わせ、裏面に下部フックが位置する「★」付近をヘルメット側に押し付けてホルダーをロックさせます。反対側のホルダーも同様に取り付けを行ってください。

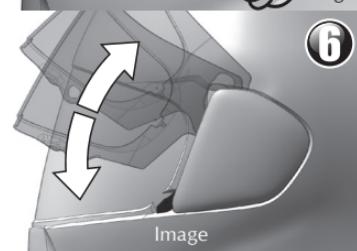


VAS-Vシールドの動きが スムーズでない時には



⑥最後にシールドを数回上下させて作動具合を確認します。

必ず開閉確認を行なってから、ヘルメットをご使用ください。



シールドの摺動穴周辺①と、内側に突き出たシールドピンの軸②に潤滑シリコンを少量塗布し、シールドをヘルメットに取り付けて数回上下に動かし、シリコンオイルを十分馴染ませてください。※中身が漏れ出るおそれがありますので、潤滑シリコンを使用した後は蓋をしっかりと閉めてください。

E シールドベースの着脱

シールドベースを外す際は、左右のホルダーとシールドを外してシールドベースを固定する上下2本のネジを10円玉などの硬貨で回して外します。シールドベースを取り付ける際は、シールドベースの左右を確認してネジで取り付けてください。

■シールドベースの着脱や交換を行ったり違う種類のシールドに取り替えた際、ヘルメットへのシールドのアタリ（密着度合い）がきつく、または緩くなってしまう場合があります。そのような時は下記のようなシールドベースの再調整を行なってください。

①VAS-Vリリースレバーを操作して左右のホルダーを外します。次にVAS-Vリリースレバーをリセットする（動かしたレバーを元の位置に戻す）ために一旦シールドベースよりシールドを外してから再度取り付けます。その後、シールドベースが自由に動かせる程度に10円玉などの硬貨を使って四本のネジを少し緩めます。

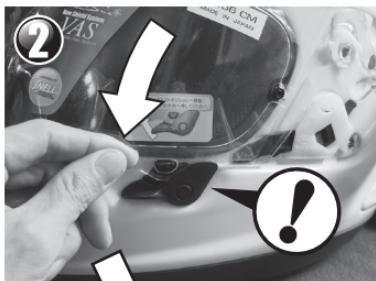
②シールド側の指かけの上に指をかけ、カチッ！と止まるロック完了位置まで確実にシールドを引き下げてください。次に、シールドベースの位置を整えます。止まる位置までシールドベースを前方に押してください。



標準のVAS-V MVシールドからVAS-Vポスト付シールド、VAS-Vダブルレンズシールド等に付け替えた時、またはその逆のパターンを行なった時、この調整を行なってください。



③シールドを手のひらでシールドベース側に押し、シールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってからシールドを開き、左右のホルダーを取り付けます。



ストリングの着脱

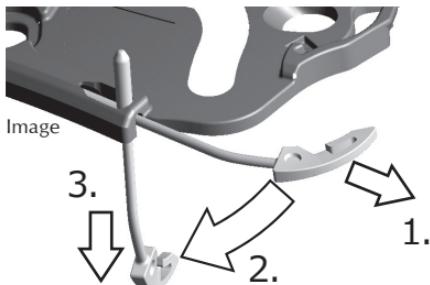
ホルダー側のフックの外し方

ストリングのフックの返しを爪の先で押しながら引き抜きます。



シールドベース側のアンカーの外し方

ヘルメットから取り外したシールドベースからストリングを全て引き出します。そして、シールドベースの下側に向け90度折るように曲げるとシールドベースから外れます。



シールドベースを外さないと、ストリングのアンカーは外せません。



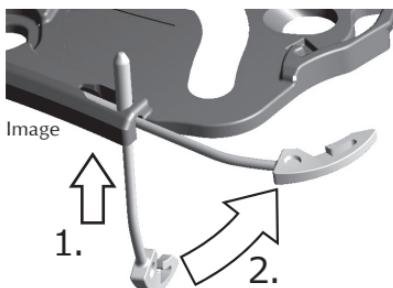
ホルダー側のフックの付け方

ストリングのフックを、ホルダーのマウントに奥まで差し込みます。



シールドベース側のアンカーの付け方

シールドベース後方の丸穴にストリングのアンカーを裏から差し込んで、シールドベースに設けられた溝に収まるように90度持ち上げます。

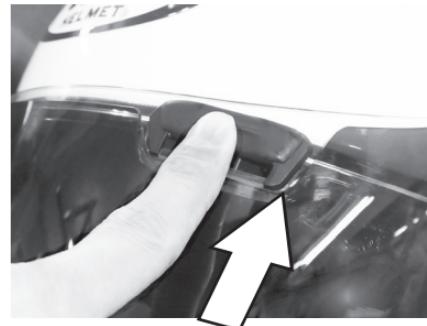
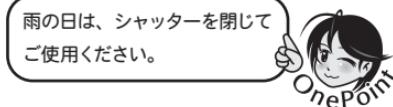


ストリングを付けないでヘルメットをご使用になると、シールドの着脱の際、ホルダーを床や地面に落とすことがあります。



F PSブローシャッターの操作

吸気口を覆っているシャッタープレート中央の膨らみを指先で押し上げるとシャッターが開きます。閉じる際は、シャッタープレートを止まる位置まで引き下げます。



G マウスシャッターの操作

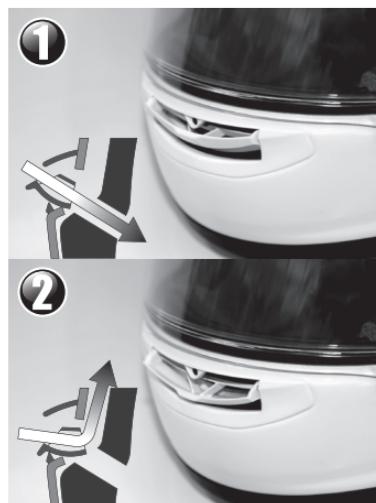
①シャッター半開

【フリーフローシステムモード】

シャッターを1段階下げる【フリーフローシステムモード】となり、導入した外気に口元にこもる空気をのせて排気ポートより排出します。

②シャッター全開【デフロストモード】

シャッターを更に下げて全開になると【デフロストモード】となります。このモードでは、導入した外気をシールド内面に吹き付けて曇りを軽減します。



排気ポート

フリーフローシステムモードは、マウスシャッターから導かれた下降気流に口元にこもる空気をのせて、ヘルメット下部に設けられた排気ポートから排出を行います。



H

QVFダクトの操作

ダクト側面のスライドスイッチを、後方（ヘルメットの前後に準じます）にスライドさせるとシャッターが開き、前方にスライドさせるとシャッターが閉じます。



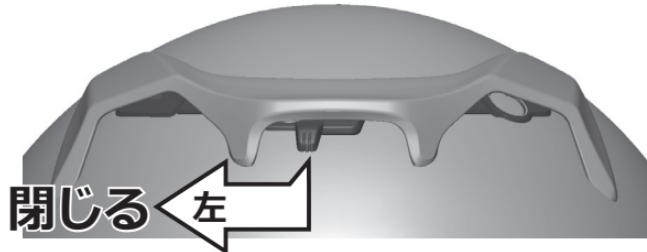
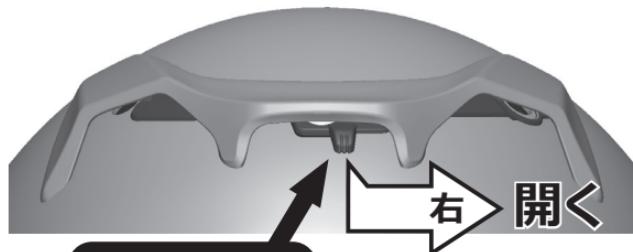
雨の日は、前方のQVFダクトのシャッターを閉じてヘルメットをご使用ください。



I

QVRダクトの操作

中央部の排気口から出ているスライドスイッチを、（ダクトを排気口側から見て）右にスライドさせるとシャッターが開き、左にスライドさせると閉じます。



J ディフレクターの着脱

ディフレクターの外し方

差し込まれているディフレクターの端をしっかりと掴み、真っ直ぐ引き上げるとディフレクターを外すことができます。

呼気のブロック効果があるディフレクター
は、その有無を自由に選択できます。



OnePoint



ディフレクターの付け方

ディフレクターの中心とヘルメットの中心を合わせ、窓ゴムとセンターパッドとの隙間にディフレクターのフックを奥までしっかりと差し込んでください。



K エアロフラップの操作

エアロフラップの展開

エアロフラップの下部中央を摘み、矢印の方向に引き出します。

※写真は、エアロフラップを最大限引き出した状態です。



エアロフラップの格納

エアロフラップを矢印の方向に押し上げます。



エアロフラップを止まる位置以上に無理に引き出すと、エアロフラップが脱落するおそれがあります。

ヘルメットの着脱時や持ち運ぶ際には、エアロフラップを格納してください。

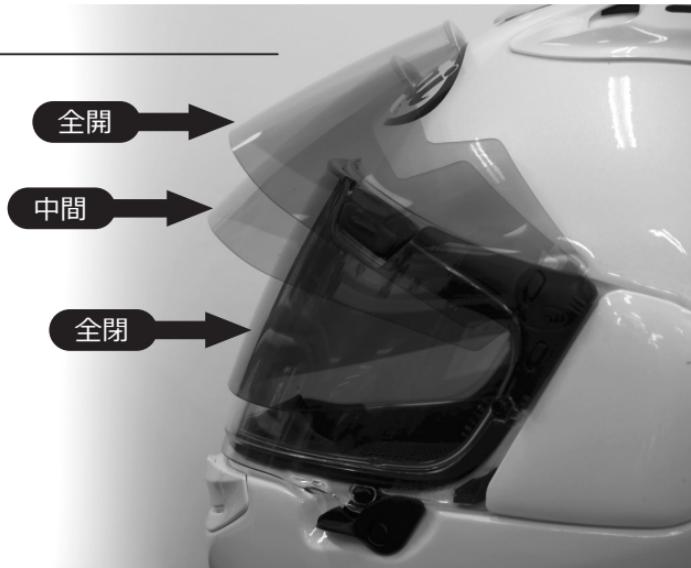
L プロシェードシステムの操作

サンバイザーを上げた状態

上げられたサンバイザーは、オフロード用ヘルメットのバイザー（庇）のような役目を果たし、斜め上からの陽射しをやわらげます。

サンバイザーを下げた状態

下げられたサンバイザーは、スマートシールドのような役目を果たし、透過する陽射しをやわらげます。山影やトンネルなど周辺が暗くなる状況が迫った場合、サンバイザーを跳ね上げて速やかにクリアな視界を得ることができます。



夜間やトンネル内等の周辺が暗い状況では、サンバイザーを上げてご使用ください。

雨天時など視界が芳しくない状況では、サンバイザーを上げてご使用ください。

サンバイザーを上げた状態で、尚且つシールドを上げて高速道路を走行するのは、風圧に煽られるため大変危険です。



サンバイザーの操作は、必ずシールドを下ろしてVロックレバーでロックされた状態で行ってください。
ヘルメットを使用しない時はサンバイザーを下ろして保管してください。

①サンバイザーの上げ方

サンバイザーの操作を行う際には、シールド側が動かないよう^に予めVロックレバーでロックされた状態で行います。

サンバイザーの下端に指をかけて押し上げます。サンバイザーは中間位置（半開）で止めることもできます。



予め、シールドをロックしておきます



指でサンバイザーを押し上げます

②サンバイザーの下げ方

サンバイザーの中央を掴み、前方に引き出します。そして、引き出した状態を保ったまま、サンバイザーを下ろしてください。



サンバイザーを前方に引き出す



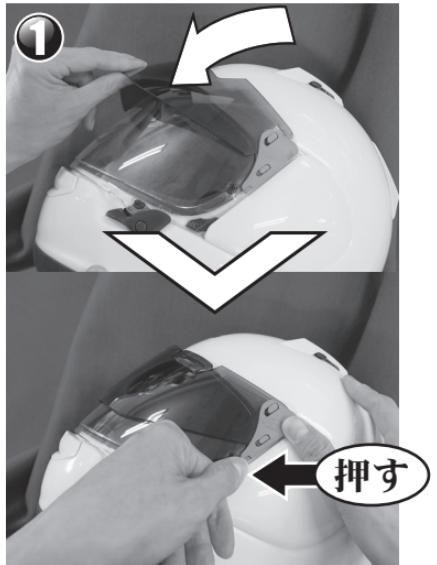
引き出した状態でサンバイザーを下げる

サンバイザーの着脱

サンバイザーの外し方

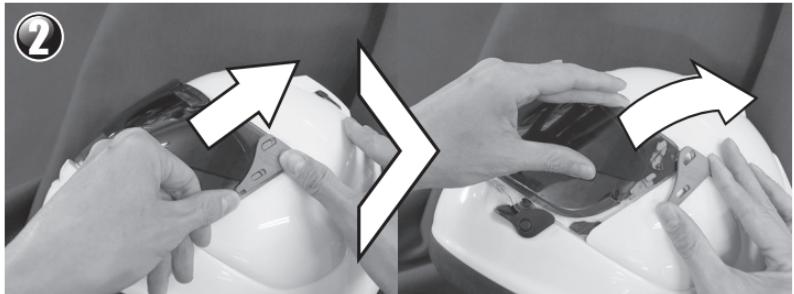
- ①サンバイザーが上がっている場合は、一旦サンバイザーを全閉位置まで下ろします。そして、ピボットカバーのロックボタンを押します。

ここで説明は、部品を見やすくするために
グレーに着色しています。

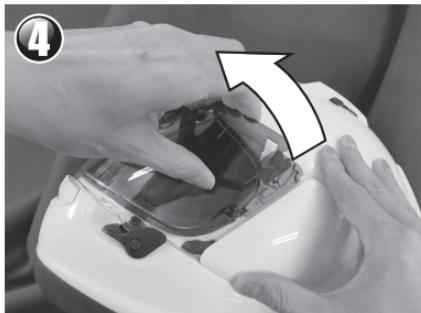


- ③ロックボタンを押したまま、ピボットカバー（以下カバー）を矢印の方向にスライドさせます。すると、カバーがピボットベース（以下ベース）から外れます。

外したピボットカバーの紛失に
ご注意ください。



④サンバイザーの端部を、ベースから取り外します。

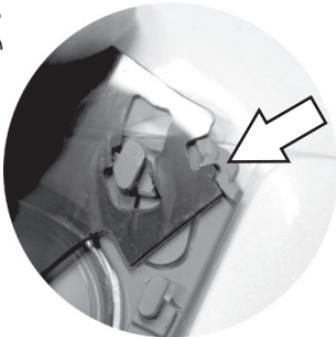


サンバイザーの付け方

①サンバイザーの取り付けは全開位置で行います。
ベースの凹みに、サンバイザーの突起部をあてがい
ます。



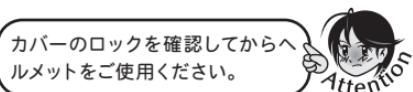
L・左用 R・右用



②ピボットカバーの左右を確認し、ベースの
突起とカバーの穴を合致させます。



③カバーを矢印の方向にスライドさせます。
止まった位置でカバーはロックされます。



お客様へのお知らせ

- ▲ピンロック120は別途お買い求めください。
- ▲当製品とサングラスを併用するのはお止めください。
- ▲傷などで見づらくなった場合は新しい製品をご購入ください。
- ▲夜間やトンネル内、曇りや雨の日はサンバイザーを上げてご使用ください。
- ▲ピンロック120を取り付ける時は、予めサンバイザーを外してから行なってください。
- ▲サーキット走行では、サンバイザーを取り外してご使用になることをお勧めします。

シールド及びサンバイザーについて

シールド及びサンバイザーには、その表面硬度を高めるハードコート加工が施されています。しかし、硬い布で拭くなど取り扱いによっては傷が付くおそれがある消耗品です。傷によって見づらく感じるようになった場合は、新しい製品をご購入ください。尚、サンバイザーの上下動の際やシールドへの接触によってサンバイザーやシールドの表面に擦り傷が生じるおそれがあります。予めご了承ください。

ミラーコーティングされたサンバイザーについて

1. 夜間やトンネル内ではサンバイザーを上げてご使用ください。
2. シンナー、ガソリン、ガラスクリーナーなどが付着すると素材が劣化し、衝撃をうけた際にそこをきっかけに破損することが有りますので絶対に使用しないでください。
3. シールド表面に薄いコーティングが施してあります。使用条件によってはコーティングの剥離や変色をおこし視界を妨げます。異常が見られた場合は使用せず、新しいサンバイザーと交換してください。
4. 汚れた場合には、汚れ等を付着させたまま拭くと傷等の原因となります。中性洗剤を薄めた液で洗浄し、真水でよく濯ぎ、その後柔らかい布で、擦らず叩くようにして水分を取り除き、自然乾燥させてください。また、雨天時に長時間使用すると、ミラーコーティング層が軟化し、剥がれことがありますのでご注意ください。



Racing Specialities

M システムパッドの着脱

システムパッドの取り外し

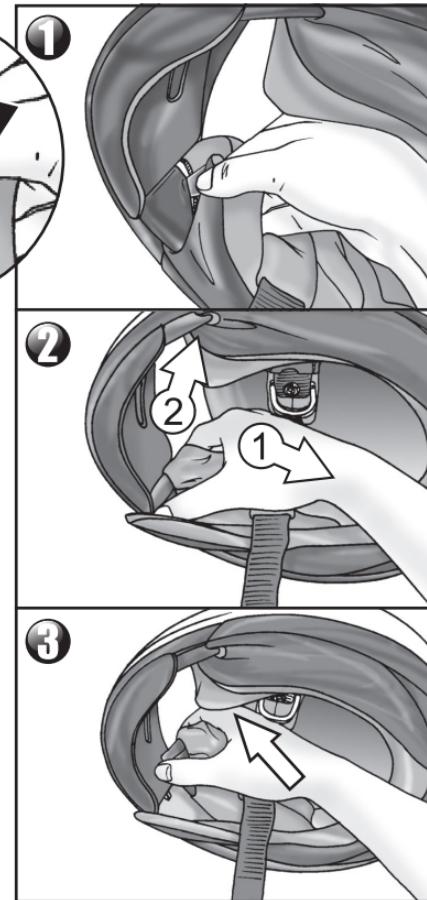
①システムパッド前方のポケットに差し込まれている【タブ】を抜き取ります。タブは付け根を摘まみ、矢印の方向に引き抜きます。



②次に、システムパッドの前方を掴んでヘルメット後方に向かって押し付けます。すると、システムパッドの前方のロックが解除されるので、システムパッド前方を持ち上げます。

③システムパッドの前方が外れたら、システムパッド全体を掴んで斜め前方に抜き取ります。

システムパッド内の緩衝体は、強い力を加えると折れてしましますので取り扱いにはご注意ください。



システムパッドの取り付け

- 予め、あご紐をパッド中央の穴に通しておきます。
- ①システムパッドの後方から先にヘルメットにはめ込みます。

②システムパッド前方を、ロックされるまで上から押し付けます。取り付け後、システムパッド前方を上下左右に動かしてもシステムパッドにガタつきが生じなければ問題ありません。

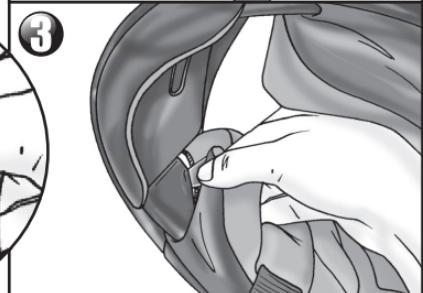
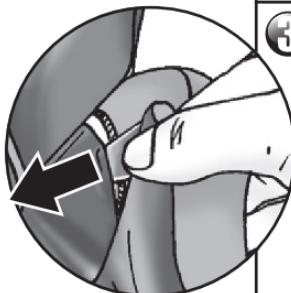
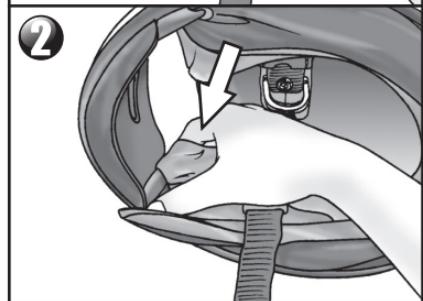
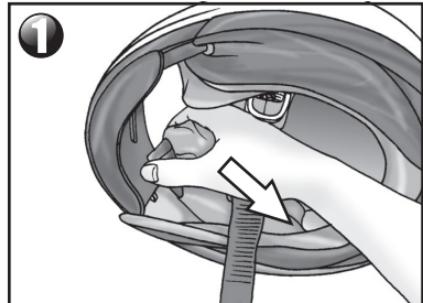
③次に、あご紐を引っ張って弛みを取り除き、システムネックのタブを、システムパッド前方に設けられたポケットに差し込んでください。



システムパッドを装着せずにヘルメットをかぶったり、パッド中央の穴にあご紐を通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。あご紐をパッド中央の穴に正しく通してシステムパッドを正しく取り付けてヘルメットをご使用ください。



システムネックのタブの取り付けが不充分だと、ヘルメットの着脱時や走行中にタブが外れてしまうおそれがあります。

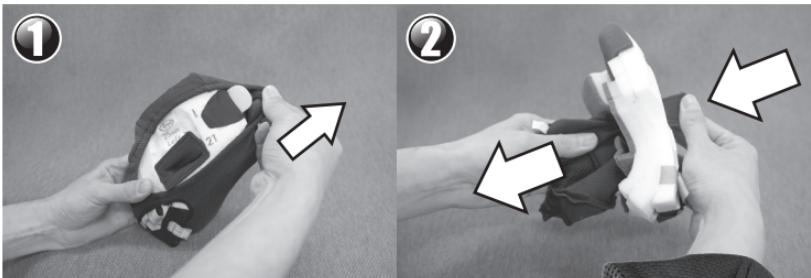


N パッドカバーの着脱

パッドカバーの取り外し

①パッド後部の爪の部分よりパッドカバーを外します。

②次に、システムパッド裏面のストッパーを縦にして、パッド本体の中央の穴に通して抜き取ります。



パッド本体は熱や変形に弱い素材で構成されている
ので、やさしく手洗いしてください。



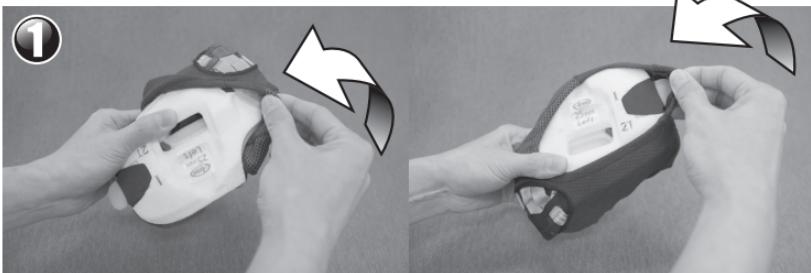
ストッパー

パッドカバーの取り付け準備

■パッド本体とパッドカバーの左右を確認します。パッド本体とカバーには、左(Left)右(Right)の表示ラベルが付いています。

パッドカバーの取り付け

①パッド本体に前方から先にカバーをかぶせます。途中パッドを持ち替えてカバーの形を整え、後方の爪までかぶせます。



②パッドカバー前方の穴からパッド本体のツメと角が出るようにカバー位置の調節を行います。

③パッドカバーをかぶせた直後はウレタンフォームの角がパッドカバーに押されて丸まっています。

このままではかぶり心地に影響するので、ウレタンフォームの角を出す作業が必要となります。

ウレタンフォームの角を出すには、パッドの頬にある面の中央の孔に指を入れ、パッドカバーを指先で引っ張り上げます。すると、パッドカバーとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンフォームの角が回復します。

④パッドの中央の孔にストッパーを縦向きにして通し、パッド裏面の四角い窪みに收めます。

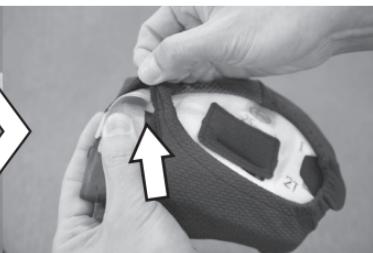
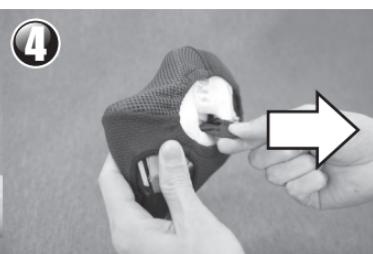
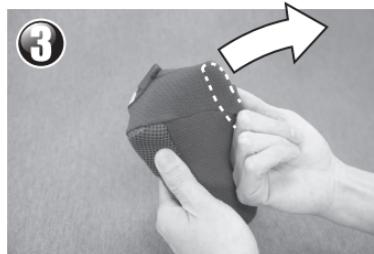
⑤エマージェンシータブが引き出されている場合は、エマージェンシータブを止まる位置まで引っ張り上げます。そして、引っ張ってできたループは、パッドカバーの穴に收めます。



エマージェンシータブが周辺物に引っ掛かるおそれがあります。エマージェンシータブを引き出したまま使用するのをお止めください。



このカバー位置が正しくないと、かぶり心地に影響しますので、入念に位置調節を行ってください。



調節パッドによるサイズの調節

システムパッドには、容易に剥がして厚み変更ができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことでパッドの厚みを5mmほど薄くでき、フィット感を緩くすることができます。

調節パッドの取り除き方

システムパッドからカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。

調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。尚、剥がしたパッドは再利用できません。お住まいの地域の、軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールにしたがって廃棄してください。



インカムホールについて

システムパッドからカバーを外し、耳の穴にあたる位置の丸いパッドを剥がすと、ヘルメットスピーカーを取り付けるスペース（インカムホール）ができます。



直径が5cm未満の、薄型タイプのヘルメットスピーカーをご使用ください。



0 ヘルメットサイズの調節

■標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とシステムパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定をご参考のうえ、お選びください。

システム内装による頭回りの調節

【54と55 - 56】【57 - 58と59 - 60未満】にはそれぞれ共通の内装枠が使用されています。この事により表のような頭周りの微調整が行えます。内装枠サイズはローマ数字（I～V）で表示されています。この枠の数字が異なると取り付けることができませんのでご注意ください。

ヘルメットサイズ(cm)	内装枠サイズ・パッド厚(mm)		
54	II-7	II-10	
55 - 56		II-7	II-10
57 - 58	III-7	III-10	
59 - 60未満		III-7	III-10
61 - 62未満		IV-7	
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

システムパッドによる頬部の調節

システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通です。基本的に全サイズのヘルメットに、どの厚さのシステムパッドも取り付けることができます。しかし、標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。

ヘルメットサイズ(cm)	システムパッドの厚み(mm)		
54	20	25	
55 - 56・57 - 58	15	20	25
59 - 60未満・61 - 62未満	12	15	20
フィット感	ゆるくなる	標準	きつくなる

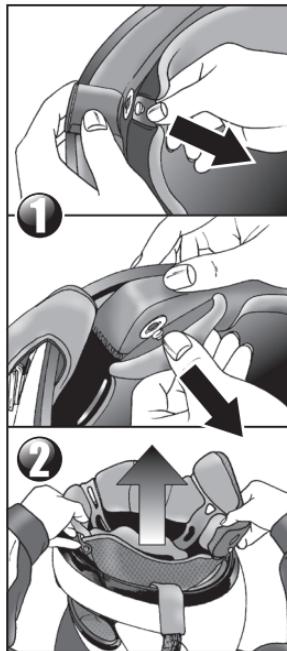
P システム内装の着脱

内装の外し方

①システム内装は四つのホックで衝撃吸収ライナの内側に取り付けられています。

それぞれのホックのなるべく近くを持ち、ヘルメットの中心に向けて引っぱってホックを取り外してください。

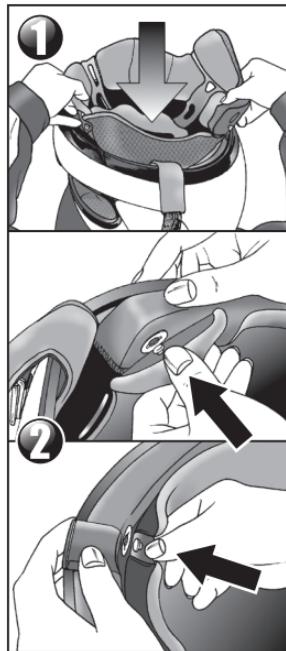
②システム内装をヘルメットから取り出します。



内装の付け方

①内装の前後の向きに注意してヘルメット内に入れます。

②システム内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。取り付け完了後に内装の歪みを整えてください。



ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗用手袋をヘルメット内に入れるとき、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋のプロテクター やエアーダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。

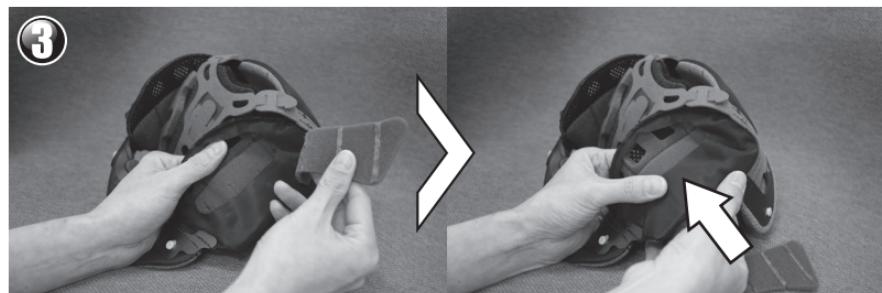
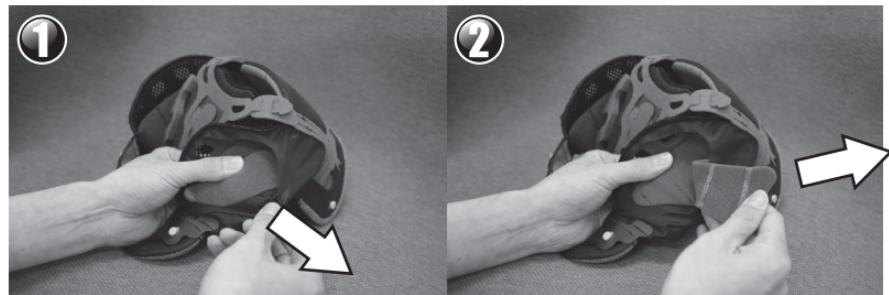
■システム内装のサイドパッド部分には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が貼り付けられています。

この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で4mmほど薄くできます。

①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。

②調節パッドは、パッドの本体側に粘着テープで部分止めされているので丁寧に剥がしてください。

③調節パッドを取り除き、ポケットを閉じてシステム内装の形を整えます。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくつ付けないようご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようご注意ください。尚、剥がしたパッドは再利用できません。お住まいの地域の、軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールにしたがって廃棄してください。



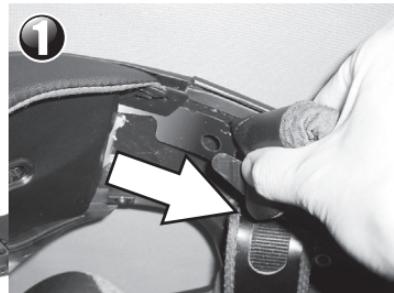
Q システムネックの着脱

システムネックの取り外し

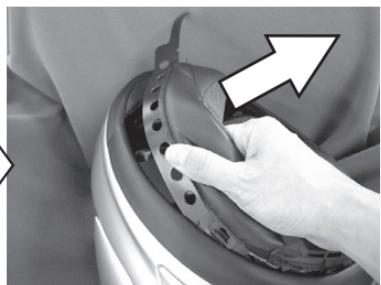
■予め、左右のシステムパッドを外しておきます。

①センターパッドの裏に差し込まれているシステムネックの【枠先端】を、左右とも抜き取ります。

枠先端がどのようにセンターパッドに差し込まれていたか、覚えておいてください。



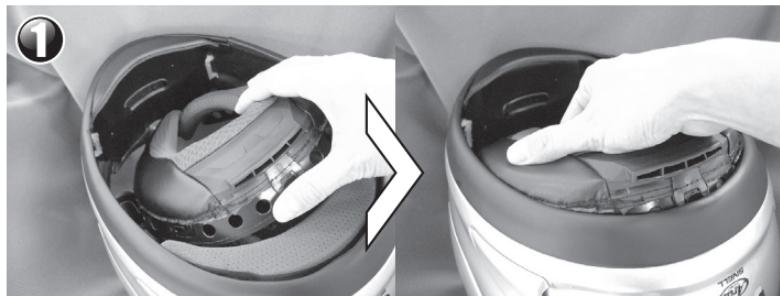
②システムネックの中央をしっかりと掴んで、エッジに沿って左または右に3~4cmほどスライドさせると、取り付けフックが解除されてシステムネックを引き抜くことができます。



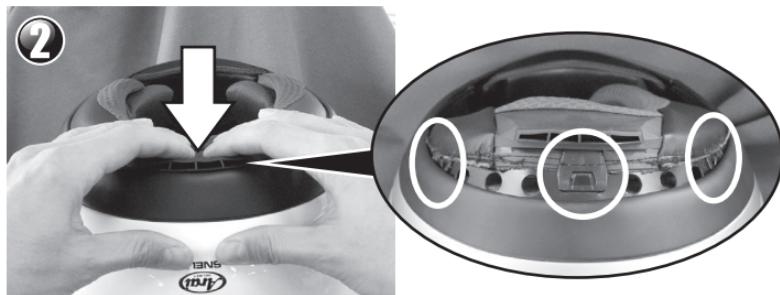
システムネックを外す際は、縫製のほつれ防止のためシステムネックを枠ごとしっかり持ってください。また、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

システムネックの取り付け

①システムネック両端をすばめ、ヘルメット内に一旦入れます。そして、ヘルメット側の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。



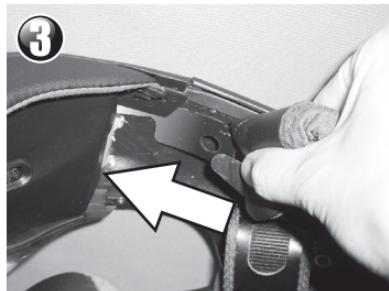
②次にシステムネック後部のフックの取り付けを行います。先に左右のフックを上から押し込んで取り付け、中央は写真②のように両手で摘むようにして取り付けます。



取り付け後にシステムネックを少し引っ張ってもフックが外れないことを確認してください。



③システムネックの【枠先端】をセンターパッドの裏に差し込み、システムパッドを取り付ければ作業終了です。



枠先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けることがあります。



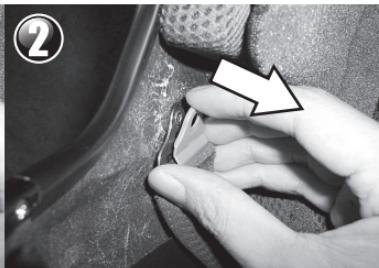
システムネックの大きさはヘルメットサイズによって異なりますので、パートリストをご参照ください。



R ストラップカバーの着脱

ストラップカバーの取り外し

①あご紐基部の金属製アンカーにかぶさっている、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】をしっかり持ちます。



②カバーハンガーを上方からめくるようにして、金属製アンカーから取り外します。

③ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。反対側のストラップカバーも同様に外してください。

ストラップカバーの大きさは、ヘルメットサイズによって異なりますので、パーティリストをご参照ください。



ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。ストラップカバーは合成皮革が縫い付けられている方を【裏】とします。



左側：合皮の部分が短い



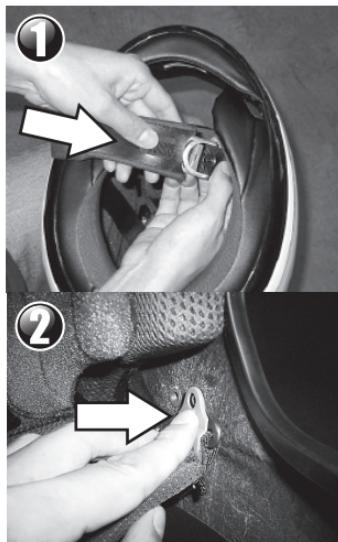
右側：合皮の部分が長い

左側ストラップカバーの取り付け

- ①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、Dリング側のあご紐をカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



カバーの途中に開いてい
る穴に指を入れてDリング
を送り出すと、楽に通すこ
とができます。

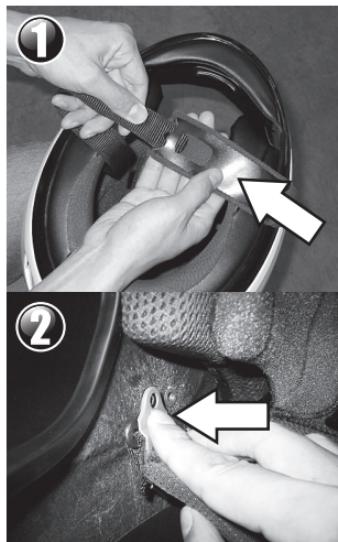


右側ストラップカバーの取り付け

- ①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、長い方のあご紐をカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



あご紐は、刻印の入った
スナップの頭を上に向け
てカバーに通します。



ストラップカバー未装着の状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付
けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

5 ヘルメットのお手入れ

パーティ類のお手入れ（中性タイプの台所用洗剤を推奨）

ホルダーやベンチレーションダクトなどのパーティ類は、中性洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーティ表面の汚れを拭き取ってください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。



シールドのお手入れ（中性タイプの台所用洗剤を推奨）

シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間漬け込むのは絶対にお止めください。

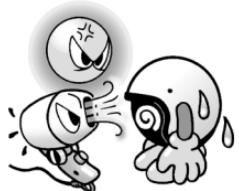


ヘルメット本体の洗い方（中性タイプの洗濯用洗剤を推奨）

ヘルメットを丸洗いする時はヘルメットからシールドや着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



ヘルメットを乾燥させる際、50°C以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしましますのでご注意ください。

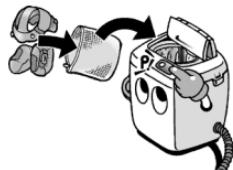


着脱式内装のお手入れ（中性タイプの洗濯用洗剤を推奨）

EPフルシステム内装（システム内装・システムパッドのカバー・ストラップカバー・システムネック）をヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、システム内装やシステムネックは枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終えたら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



内装を洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモード選択を行なってください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50°C以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

pHコントロール：抗菌消臭高機能生地について

pHコントロール：抗菌消臭高機能生地を使用した内装は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にはつれや毛羽立ちが生じた際は、新しい内装をお買い求めください。

T

オプションパーツリスト

パーツ名		部品番号
VAS - V MVシールド	クリア	011057
	セミスモーク	011056
	スモーク	011058
VAS - V MVピンロック120 (クリア)		011079
VAS - V ダブルレンズシールド	クリア	011063
	セミスモーク	011064
VAS - V ポスト付シールド	クリア	011054
	スモーク	011055
VAS - V ティアオフシールド	クリア (5枚入り)	011065
	スモーク (3枚入り)	011067
VAS - V PSプロシェードシステム		011070
VAS - V PSノンバイザーシールド		011071
VAS - V PSサンバイザー (スモーク)		011073
VAS - V PSピボットカバー (左右セット)		111138
VAS - Vホルダー	グラスホワイト	025429
	グラスブラック	025430
	アルミニナシルバー	025431
	フラットブラック	025432

パーツ名	部品番号
QVFダクト (左右セット)	グラスホワイト
	グラスブラック
	アルミニナシルバー
	フラットブラック
	スモーク
	フラットスモーク
QVRダクト	グラスホワイト
	グラスブラック
	アルミニナシルバー
	フラットブラック
	スモーク
	フラットスモーク
VAS - Vシールドベース	021066
スーパーADシスネジセット	112511
IPディフレクター	082391
ESチンカバーV	075711

アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行なっていません。お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカタログやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

内装生地のコットン化について

ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし、天然素材以外は使用できないお客様のためにコットン（綿100%）内装の製作ご相談も、アライヘルメット品質管理課で受け付けています。

アライヘルメット品質管理課 ☎ 048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）

パート名		部品番号
RX-7X EPシステムパッド	12mm	055697
	15mm	055698
	20mm	055699
	25mm	055700
RX-7X EPシステム内装	II-10mm	075682
	II-7mm	075683
	III-10mm	075686
	III-7mm	075687
	IV-7mm	075691
RX-7X EP システムネック	(54) (55-56) (57-58) (59-60) cm	075704
	大 (61-62) cm	075705
	特大 (63-64) (65-66) cm	075707
RX-7X EP ストラップカバー	(54) (55-56) cm	073616
	大 (57-58) ~ (65-66) cm	073617



U

ESチンカバーVについて

お客様へのお知らせ

フックが立ち上がっている方向、Araiの刻印が入っている側が「チンカバーの外側」となります。

逆に付けると、外れやすくなる、外れなくなる等の不具合が生じますので十分ご注意ください。



チンカバーの付け方

①先ず、エアロフラップを止まる位置まで引き出します。こうする事でチンカバーの前方フックが入れやすくなります。



②それぞれのセンターを合わせ、縁ゴムとエアロフラップの隙間にチンカバーの前フックを差し込みます。チンカバーの縫い目まで縁ゴム内に入り込ませ、型くずれを直して馴染ませます。

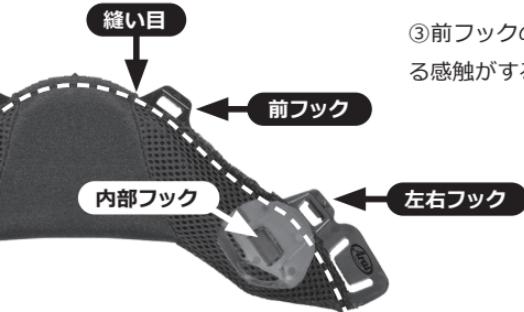


馴染ませている間、エアロフラップが中に引っ込んでしまった場合は再度引き出してください。



エアロフラップには、センターを示す目印▲が付いています。





③前フックの場所を、上から「カチッ」と二つとも入る感触がするまで押し込みます。

チンカバーを初めて付ける際、フックが少しキツイ場合があります。片方づつ強めに押し込んでください。



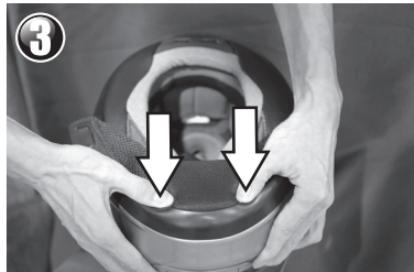
④縁ゴムとエアロフラップの隙間にチンカバー表側左右フックを差し込みます。チンカバーの縫い目まで縁ゴム内に入り込ませ、馴染ませてください。そして、左右フックの場所を上から「カチッ」と二つとも入る感触がするまで押し込みます。

チンカバーを少し引っぱってもヘルメットから外れないことを確認します。



⑤チンカバーの両サイドのメッシュ部内部に備わったフックを縁ゴムに乗せるようにして引っ掛けておくことで、チンカバーの変形(ヘルメット内への潜り込み)を防止できます。

チンカバーやエアロフラップを引き出すと、エアロフラップ自体がチンカバーの支えとなり、内部空間が確保されてあご下にゆとりが生まれます。

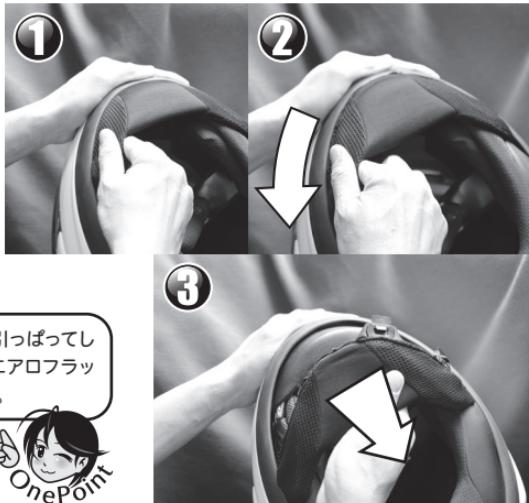


チンカバーの外し方

- ① チンカバーの端（右左のメッシュ生地の部分）を内部フレームごとしっかりと掴みます。この時チンカバー以外を巻き込んで掴まないよう、ご注意ください。
- ② 掴んだ方を縁ゴムに沿わせるように下向きに2~3cmほど引っぱります。
- ③ 全てのフックが固定解除されましたので、チンカバーを抜き取ります。



チンカバーを外す際に一緒に掴んで引っぱってしまわないよう、予めチンカバーやエアロフラップをヘルメット内に収納しておきます。



チンカバーの洗い方

チンカバーをヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、チンカバーに取り付けられた枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終えたら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。

チンカバーに使用されている撥水性生地の性能を維持するため、定期的に洗濯されることをお勧めいたします。その際洗剤は、柔軟剤や漂白剤を含まない中性タイプの洗濯用洗剤をご使用ください。



チンカバーには撥水性の高い生地が使用され、小雨程度では内部に水は染みこみにくくなっています。しかし、激しい雨によってチンカバーが湿気を帯びたままでヘルメットを使用すると、ヘルメット内部の湿度上昇によってシールドの曇りが助長されるおそれがあります。激しい雨の走行時には、チンカバーを取り外してヘルメットをご使用ください。



株式会社アライヘルメット

〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 ☎048-641-3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎048-645-3661 受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）